

活動日時	R8.5/26.27.28.6/2.4
クラス名(年齢)	ラナ組
年間テーマ	園庭遊び、自然、運動遊び

1. 活動テーマ

(テーマ)

泥や水に触れ、冷たさややわらかい等の感触を味わう。

(テーマの設定理由)

気温が高くなり、水や泥に触れることが心地よい季節となる為、泥や水の感北を全身で味わいながら、感覚遊びを楽しむように設定した。

2. 活動スケジュール



9:20～どろんこ遊びスタート  
個別にバケツを用意して中に泥を入れて遊ぶ。

3. 活動のために準備した道具、環境設定

〈道具〉  
・バケツ  
・スコップ  
・カップ  
〈環境設定〉  
・安全に遊べるよう、滑りにくく広さのある場所を確保する。  
・一人ひとりが無理なく遊べるよう、泥の量や水の深さを調整する。

4. 活動内容

バケツやタライに泥を入れ、無理なく触れながら冷たさや感触を楽しむ。

子どもの姿・言葉、子ども同士や保育者との関わり	写真
<p>○初めての感触に驚き！ 一人ひとつ、ボウルの中に泥を入れて渡して触ってみたところ、不思議な感触や自分の手についた泥を真剣に見つめていた。保育者が一緒に泥を触ってみると、さらにボウルの中に手を入れて触っていた。</p> <p>○冷たくてザラザラ ボウルの中に何度も手を入れて触るのを楽しんでいた。保育者が子どもたちのそばにスコップを置いておき、時々スコップで泥をいじって見せると真似をしていた。</p> <p>○何でも口で確かめたい！ 泥のついた手を舐めようとしたり、目の前にあるスコップを口に入れようとしたり... 自分で手に取って形や感触を確かめながら遊んでいた。</p>	 

5. 振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

・初めてのどろんこ遊びでは、個々にそれぞれボウルに入れた泥を渡してみたところ、すぐにボウルの中に手を入れて泥に触れる姿が見られた。普段、初めての物に抵抗のある児も積極的に触れられていたため良かった。  
・月齢差があり、遊び方もそれぞれだった。低月齢児はまだ何でも口に入れる姿があり、泥の付いた手や玩具を口元に持ってかないように十分に注意して見る必要があった。  
・2回のみの実施だったが、普段触ることのない感触に触れることはできていい経験が出来た。

活動日時	2026/6/2
クラス名(年齢)	ホア
年間テーマ	

1. 活動テーマ

(テーマ)

どろんこスープ、ごはん作りを楽しもう

(テーマの設定理由)

普段の戸外遊びでは砂遊びを好み、保育士と山づくりをしたりままごとを楽しむ姿が見られるようになってきた。そのため夏ならではの泥遊びを通して、泥や水の感触を楽しみ親しみを持ちながら遊べたら良いのではないかと考えた。

2. 活動スケジュール

- ・実際に保育士が泥を使ってスープやごはんを作る姿を見せる。
- ・興味を示した子ども一人一人にバケツや容器を渡す。

3. 活動のために準備した道具、環境設定

- ・バケツ
  - ・キッチン台
  - ・スコップ
  - ・タライ
- 等のままごと用玩具

4. 活動内容

- ・カップに泥や水を入れ、保育士と一緒にままごと遊びを楽しむ。
- ・水の量を変化させながら、ごはんやスープを作ることを楽しむ。
- ・作ったものを友だち同士で見せ合ったり、混ぜ合わせたりすることを楽しむ。

子どもの姿・言葉、子ども同士や保育者との関わり	写真
<p>○これはなんだろう？</p> <p>・ボウルと泡立て器を手に取る〇〇さん。最初はどうやって使うか分からないようだったので、ボウルを返して泡だて器を太鼓のように叩く姿が見られた。</p> <p>→自分なりに考え遊びだす姿が見られ、また声をかけることなく隣でそっとボウルに砂と水を入れ、泡だて器で混ぜていると、やり方を理解し真似する姿が見られた。</p>	
<p>○一緒にスープを作ってみよう</p> <p>・保育士がボウルに泥を入れて渡すと、スコップで泥を混ぜたり出し入れを繰り返し遊んでいた。</p> <p>→泥や水の量を変えながら混ぜることを楽しむ中で、泥遊びへの興味も深まり、親しみをもって遊ぶ姿が見られた。</p>	
<p>○大きなスープも出来たよ！</p> <p>・ふと横にあったタライを見つけた〇〇さん。ボウル同様泥を入れ混ぜて楽しんでいた。</p> <p>→スープ遊びから泥に触れることの楽しさを感じ、動きもダイナミックになっていた。</p>	

5. 振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

- ・初めて泥遊びをする子どもたちにとって、泥に触れること自体最初は怖がる様子も見られた。しかし、泥スープやごはんを作るという1つの遊びが加わることで興味を示し自ら手を伸ばし泥に親しみを持って楽しむことが出来た。
- ・ボウルや泡立て器といった玩具も最初は使い方が分からずにいたが、すぐに使い方を知らせるのではなくそこから自分なりに使い方や遊びを考え出す姿が見られて良かった。またさりげなく知らせることで、自分で気づきやってみようとする様子があった。
- ・深さが浅いタライを用意したことで、直接泥に触れることは嫌でも、タライの中の水や泥に触れることは出来る児が多くおり、感触を楽しみながら遊ぶことが出来た。

活動日時	2026/6/2
クラス名(年齢)	ラキ
年間テーマ	

1. 活動テーマ

(テーマ)

山・川を作って楽しもう

(テーマの設定理由)

普段の戸外遊びでは砂遊びを好み、保育士と山づくりやままごとを楽しむ姿が見られるようになってきた。そのため夏ならではの泥遊びを通して、泥や水の感触を楽しみ親しみを持ちながら遊べたら良いのではないかと考えた。

2. 活動スケジュール

- ・実際に保育士が泥を使って山や川を作る姿を見せる。
- ・興味を示した子どもと一緒に玩具を使って川や山作りを楽しむ

3. 活動のために準備した道具、環境設定

- ・バケツ
- ・透明レール
- ・スコップ

4. 活動内容

- ・泥や水を加え、保育士と一緒に山・川作りを楽しむ。
- ・水の量を変化させながら、作ることを楽しむ。
- ・作ったものを友だち同士で見せ合ったり、崩すことを楽しむ。

子どもの姿・言葉、子ども同士や保育者との関わり	写真
<p>○どうやって遊ぶんだろう？</p> <p>・保育士が組み立て始めると不思議そうに駆け寄り子どもたち。真似して一緒に置き、1本の道になる様子をじっと見つめていた。</p> <p>→これまで泥遊びが苦手だった子どもも、初めて見る玩具や保育士の遊びに興味を示し、汚れることも気にせず一緒に遊ぶことが出来た。</p> <p>○完成！水を流してみよう</p> <p>・繋げたレールに水を流すと興味津々の子どもたち。手を伸ばしてレールに流れる水に触れている。</p> <p>→ただ水や泥に触れるだけではなく、レールから水を流すことで水の流れる感じたり触れてみたりと普段以上に水や泥に親しみを持つ姿が見られた。</p> <p>○色々なものを流してみたい！</p> <p>・保育士が「葉っぱを流してみよう！」と声をかけ、行くと一瞬で流れる様子に驚く姿が見られた。「ぼくも！」と葉っぱを探して流したり、「これはどうかな？」と泥や砂を流してみたりと、楽しみながら遊んでいた。</p> <p>→水が流れる様子だけでなく、実際に落ち葉や砂を流すとどんな動きをするのか、どんなものが流れるのか興味を持って流す姿が見られた。</p>	

5. 振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

- ・月齢もあり、玩具を置いて組み立てることには難しさを感じたが、興味を示して楽しむことが出来た。その中でこれまで泥に触れることや泥遊びが苦手な距離を取っていた子どもが、川作りに興味を示し自ら水や泥に触れる姿が見られ、親しみを持ちながら遊ぶ事が出来て良かった。
- ・遊び方がわからない児も多かったため、最初は組み立てたり水を流したりを見せながら行った。途中で思いがけず小石が流れる様子を子どもが興味津々に見ていたため、落ち葉を流す姿を見せると真似して楽しんでた。その後子どもたち発音で泥や砂を流す姿が見られ、探求心や発見を喜びながら楽しむことが出来て良かった。
- ・特にポノ組が遊びに参加し始めると、レールの向きを変えたり砂を落とす位置を上から行ったりと遊びの幅が広がり、ラキ組の児にとっても刺激的で真似しようとしていた。
- ・泥だけでなく、レールを流れるきれいな水にも手を伸ばし、手についていた泥が流れると繰り返し手を汚して流す児の姿も見られた。

活動日時	2026年5月28日 10時～
クラス名(年齢)	ポノ組
年間テーマ	

1. 活動テーマ

(テーマ)

泥遊び  
・季節ならではの遊びを楽しむ。

(テーマの設定理由)

5月末から6月初旬にどろんこ遊びが始まるので、泥、砂、水に触れて様々な感触を楽しんで欲しいと思ったから。また、ママごと遊びや砂遊びを楽しんでいる児が多いのでどろんこの中でも取り入れて子どもたちの様子を見てみたいと思った。

2. 活動スケジュール

- ・日々の園庭遊びの中でごっこ遊びを行う。
- ・28日どろんこ遊びを通してごっこ遊びを行い普段との違いを感じる。

3. 活動のために準備した道具、環境設定

- ・タライ
- ・型抜きやスコップなど砂場の玩具
- ・どろんこ遊びが出来る土壌を用意する。

4. 活動内容

日々の遊びの中で戸外でのママごと遊びや砂遊びを行う。28日にどろんこ遊びを通して同じことを行って見てそれぞれの感触の違いを知る。

子どもの姿・言葉、子ども同士や保育者との関わり

①〇〇さんと△△さん  
保育者のジュース作ろうよという誘い掛けに会話には参加しないもののじっと保育者の事を見つめ、一人黙々とボウルの中に泥水を入れて遊んでいた〇〇さん。  
→葉っぱなども入れて自分でオリジナルの物を作って遊んでいた。  
その後砂場に移動してその中に砂を入れて遊ぶ様子が見られた。  
→砂場でその姿をみていた△△さんは泥遊びはしたくないが、〇〇さんの様子がとても気になっている。

しばらくして保育者に誘われ泥団子を貰いに来た△△さんだが、最初は乗り気ではなく少し嫌で泥団自体には触りたくない。  
保育者が砂をまがして泥団子の感触を変えてみると、砂のまがしてある泥団子では手が汚れないということに気が付いてそこから泥団子遊びを行うことが出来た。  
→最初は保育者と一緒に泥団子を受け取りに来ていたが、最終的には一人で泥のコーナーに来て「泥団子頂戴」と話す姿が見られていた。  
〇〇さんは一人黙々と泥遊びを楽しんでいた。

②砂場で遊んでいて……  
□□さんはあまり泥遊びに積極的ではなく砂場で遊んでいたが、キッチンに置いてある泥の入ったボウルを見つけて少し興味を示していた。最終的には一人で黙々と泥を混ぜて遊び始めて泥遊びに集中していた。葉っぱを入れてまぜまぜ。「ミントが出来たんだよ」と楽し気に話をして遊ぶ姿が見られていた。

5. 振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

泥遊びが苦手な児もいるが、それぞれが自分の楽しみ方を見つけて遊びこむ姿が見られていた。  
会話や言葉での子ども同士の働きかけは見られていなかったが、遊んでいる様子を見て興味を持ったり一緒に遊んでみようとする姿が見られていたと感じた。  
泥遊びが苦手な児も環境の設定によって少しずつ興味を示して近づいていく様子が見られていたので砂場に泥や遊びの道具を置いておくだけでも遊びは始めるきっかけになるのだなと思った。  
声掛けで誘うだけでなく、様々な働きかけを行い遊びを展開していくことが出来るように働きかけていきたい。

写真

